

金属板保護フィルム商社の「城山」

今期スキッド用木材拡販へ

納入先実績倍増目指す

意匠性金属板保護フィルム

の販売、加工を手掛

ける城山(本社・名古屋

市名東区、社長・加藤隆

介氏)は今年度(202

4年5月期)、鋼板やコ

イルを搬送するスキッド

に適した木材製品の拡販

に注力する。従来のライ

ンアップから樹木の種類

を増やすとともに周知活

動を推進し、納入実績を

現在の倍まで伸ばしたい

など鋼板加工に関連する

製品を販売、開発してい

る。18年にはスキッドや

つなげるため、ラミネー

パレット、木箱の材料と

なる木材の仕入れ先を開

拓し、自社製

品「Sdウッ

ド」として市

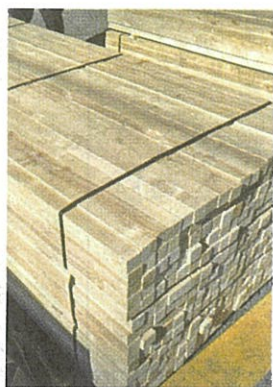
場投入した。

納入先を順

調に増やす

中、21年に世

界各国で木材



樹種も拡大したSdウッド

が不足するウッドショックが発生。材料が建材へにも優れる。

集中したことで、同商品の供給が不安定になった。30社ほどの採用実績があるが、ウッドショック時に数量調整せざるを得なかったユーザーの再度

しかしこの問題が落ち着き、現在流通するスキッド用木材と同等の強度を有する新たな樹種を調達するめどが立ったことから、Sdウッドの販売の導入を目指す。加藤社長は「Sdには「shiriyama dry」のほか「SDGs」(「Sustainable Development」の

意味も込めており、経済合理性と環境配慮性の両立を目指す素材と考え

ている。高い機能、環境対応の双方をアピールしながら、販路を広げたい」としている。

調に増やす中、21年に世界各国で木材